

2015年4月30日

会社名 ヤマハ株式会社

代表者 代表取締役社長 中田卓也

(コード番号: 7951 東証第1部)

**2015年3月期 決算の概要と**  
**2016年3月期 業績予想について**

□ **2015年3月期 連結決算の概要** — 対前期、増収増益 —

2015年3月期の売上高は、対前期では219億円(5.3%)増加の4,322億円となりました。事業セグメント別には、電子部品を除くすべての事業が増収でした。

これに伴い、営業利益は対前期で、41億円(15.9%)増加の301億円となりました。経常利益は51億円(19.4%)増加の312億円、当期純利益は20億円(8.9%)増加の249億円と、いずれも増益となりました。

なお、2015年3月27日公表の半導体生産子会社の事業譲渡に関連する費用として、16億円の特別損失を計上しております。

<事業セグメント別の売上高・営業損益の状況>

・ **楽器事業 売上高 2,817億円(前期比 7.4%増) 営業利益 251億円(前期比 27.0%増)**

ピアノは消費増税による影響もあり国内での販売が低調でしたが、北米および中国で売上げを伸ばし、全体では堅調に推移しました。電子楽器はデジタルピアノが全地域で増収となったほか、10年ぶりに新製品を発売したエレクトーンが国内で売上げを伸ばしました。ギターは全地域で、また、管楽器は北米を中心に売上げを伸ばしました。教室収入は在籍生徒数の減少により減収でした。

セグメント全体の売上高は、前期に比べ194億円(7.4%)増加の2,817億円となりました。

営業利益は、53億円(27.0%)増加の251億円となりました。

・ **音響機器事業 売上高 1,128億円(前期比 7.0%増) 営業利益 61億円(前期比 4.6%増)**

オーディオ機器は北米で回復の兆しが見えるものの厳しい状況が続き、減収となりました。PA機器は新製品の導入により欧州で好調に推移したほか、国内の音響設備工事も増収に寄与しました。また、業務用通信カラオケ機器は前期を下回りましたが、ICT(Information and Communication Technology)機器が売上げを伸ばしました。

セグメント全体の売上高は、前期に比べ74億円(7.0%)増加の1,128億円となりました。

営業利益は3億円(4.6%)増加の61億円となりました。

・ **電子部品事業 売上高 134億円(前期比 28.6%減) 営業損失 14億円(前期 8億円の営業利益)**

半導体は事業環境が好転せず、主にスマートフォン向けの地磁気センサー(電子コンパス)およびアミューズメント機器用画像コントローラーの販売が振るいませんでした。

セグメント全体の売上高は、前期に比べ54億円(28.6%)減少の134億円となりました。

減収に伴い、営業損失は14億円(前期は8億円の営業利益)となりました。

・ **その他の事業 売上高 242億円(前期比 2.3%増) 営業利益 4億円(前期 4億円の営業損失)**

自動車用内装部品およびFA機器は受注が回復し、増収となりました。一方で、ゴルフ用品およびリゾート事業は減収でした。

セグメント全体の売上高は、前期に比べ6億円(2.3%)増加の242億円となりました。

損益は4億円の営業利益(前期は4億円の営業損失)となりました。

□ **2015年3月期 ヤマハ株式会社個別業績の概要** — 対前期、増収増益 —

2015年3月期ヤマハ株式会社個別業績の売上高については、2,337億円(前期比4.5%増)となりました。  
損益は、営業利益105億円(前期比29.2%増)、経常利益245億円(前期比58.1%増)、当期純利益253億円(前期比42.9%増)でした。

□ **2016年3月期 業績予想について** — 増収増益を予想 —

2016年3月期連結業績については、売上高4,350億円(前期比0.7%増)、営業利益340億円(前期比12.8%増)、経常利益330億円(前期比5.7%増)、当期純利益255億円(前期比2.3%増)を予想しております。

本予想には、国内音楽教室の運営を一般財団法人ヤマハ音楽振興会に移管することに伴う124億円の減収のほか、為替による影響を織り込んでおります。

なお、本予想における想定為替レートは、対USドル120円、対ユーロ130円です。

□ **剰余金の配当について**

本日公表の業績を踏まえ、期末配当金を前回予想の16.5円から22.5円に修正し、通期の配当金を前回予想の30.0円から36.0円といたします。

注1) 文章中の売上高、損益の数値は、億円未満四捨五入で記載しており、( )内は原則前期比増減率です。

注2) 「企業結合に関する会計基準」等の改正に伴い2016年3月期から、当期純利益等の表示が変更になりますが、「2016年3月期 業績予想について」の「当期純利益」は2015年3月期と同じ表示としており、改正後の「親会社株主に帰属する当期純利益」に該当します。

以上

## 2015年3月期業績資料

ヤマハ株式会社

2015年4月30日

	前期実績 14年3月期	当期予想 (15/2/4発表) 15年3月期	当期実績 15年3月期	次期予想 16年3月期
売上高	4,103億円	4,300億円	4,322億円	4,350億円
国内売上高	1,679億円 (40.9%)	1,596億円 (37.1%)	1,604億円 (37.1%)	1,471億円 (33.8%)
海外売上高	2,424億円 (59.1%)	2,704億円 (62.9%)	2,718億円 (62.9%)	2,879億円 (66.2%)
営業利益	260億円 (6.3%)	300億円 (7.0%)	301億円 (7.0%)	340億円 (7.8%)
経常利益	261億円 (6.4%)	300億円 (7.0%)	312億円 (7.2%)	330億円 (7.6%)
当期利益	229億円 (5.6%)	210億円 (4.9%)	249億円 (5.8%)	255億円 (5.9%)
為替レート(決済レート)	100円/US\$ 129円/EUR	108円/US\$ 140円/EUR	109円/US\$ 141円/EUR	120円/US\$ 130円/EUR
ROE	9.2%	7.1%	8.1%	7.2%
ROA	5.5%	4.5%	5.1%	4.8%
1株当たり利益	118.3円	108.5円	128.8円	131.7円
設備投資 (減価償却費)	108億円 (128億円)	136億円 (127億円)	138億円 (126億円)	138億円 (137億円)
研究開発費	226億円	255億円	254億円	248億円
(キャッシュフロー)				
営業活動	332億円	315億円	317億円	385億円
投資活動	▲230億円	▲125億円	▲117億円	▲140億円
フリーキャッシュフロー	103億円	190億円	200億円	245億円
期末在庫高	827億円	879億円	878億円	871億円
(要員数)				
国内	6,830人	6,600人	6,541人	6,300人
海外	13,021人	13,500人	13,426人	14,400人
正社員計 (*1)	19,851人 (連結範囲変動による増減) (46人)	20,100人 (270人)	19,967人 (257人)	20,700人 (25人)
正社員外要員(期中平均)	7,863人	7,700人	7,860人	7,400人
(事業別売上高)				
楽器	2,623億円 (63.9%)	2,810億円 (65.4%)	2,817億円 (65.2%)	2,800億円 (64.4%)
音響機器	1,055億円 (25.7%)	1,115億円 (25.9%)	1,128億円 (26.1%)	1,175億円 (27.0%)
電子部品	188億円 (4.6%)	135億円 (3.1%)	134億円 (3.1%)	130億円 (3.0%)
その他	237億円 (5.8%)	240億円 (5.6%)	242億円 (5.6%)	245億円 (5.6%)
(事業別営業利益)				
楽器	197億円	265億円	251億円	265億円
音響機器	59億円	55億円	61億円	65億円
電子部品	8億円	▲20億円	▲14億円	5億円
その他	▲4億円	0億円	4億円	5億円

### (単独の状況)

売上高	2,237億円
営業利益	81億円 (3.6%)
経常利益	155億円 (6.9%)
当期利益	177億円 (7.9%)

2,337億円
105億円 (4.5%)
245億円 (10.5%)
253億円 (10.8%)

\*1 要員数＝期末社員在籍数

連結業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の連結業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。